

2025 年度事業報告書

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 イカオ・アコ

1. 2025 年度活動報告

1.1 総括

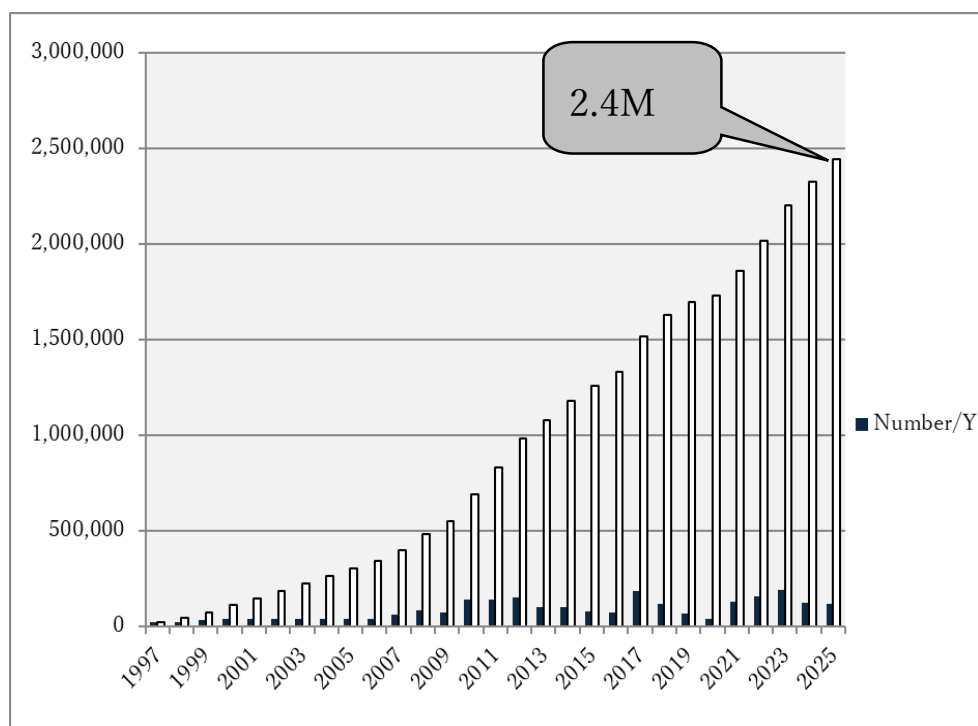
2024 年のイカオ・アコの活動実績として、

- (1) イオン環境財団、ニチバン株式会社、リコージャパン株式会社、国土緑化推進機構、Sunday Morning Factory 社から植林の助成金、寄付金をいただき、単年度で 115,521 本、累計で 244 万本の植林を達成した。
- (2) N 連の 3 年次プロジェクトが終了した。ボホールにて安全な水の供給プロジェクトを 3 年間、3 地域ずつ実施している。学校の校舎の屋根を利用して、雨水を集めタンクに貯蔵する。塩素で消毒して飲料水として活用する。併せて良好な衛生環境を整備するため、手洗い場を設置する。
⇒ 州の教育委員会から顕彰
- (3) 地球環境基金の助成金を得て、ボホール島マビニ郡マルセロ村を対象とした、3R 啓発・ごみの減量化プロジェクトと観光開発を掛け合わせた事業がスタートした。
- (4) カーボンクレジット関連で Climate Tech と組み、マングローブ林のカーボンクレジット化に取り組む。

を挙げるができる。

このコロナ禍や極端な円安からイカオ・アコの自主事業が 2020 年度からで停滞している。

- (5) 自主事業である日本人ボランティア受け入れ 5 件。
- (6) 横浜ゴムから継続的に古着を、リコージャパンから文房具いただき、PO と学校に配布した。



1.2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

助成事業、委託事業として、以下の7本を実施した。

- ① 「干ばつが常態化するボホール州における、雨水貯留タンクの建設による、安全な水の供給と衛生教育の体制づくり」、外務省 N 連
- ② 「人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生」、イオン環境財団
- ③ 「プラスチックゼロから始まる持続可能な観光地づくり～フィリピン Marcelo 村における実践～」、地球環境基金
- ④ 「フィリピン漁民の暮らしを守るマングローブ植林」、国土緑化推進機構
- ⑤ 「廃棄養殖池における植林による豊かで美しいマングローブ林の再生」、国土緑化推進機構
- ⑥ 「カンラオン市洪水被害支援事業」(リコーFree Will)
- ⑦ 研究支援 (JIRCAS)

収入内訳 (2019年度) 3,782万円	会費	20万円	0.5%	自主事業	602万円	15.9%
	寄付金	406万円	10.7%	受託事業	954万円	25.2%
	助成金/補助金	1,800万円	47.6%	その他	0万円	0.0%

収入内訳 (2025年度) 4,291万円	会費	10万円	0.2%	自主事業	194万円	4.5%
	寄付金	897万円	20.9%	受託事業	2,188万円	51.0%
	助成金/補助金	980万円	22.8%	その他	23万円	0.5%

(2) その他の事業に係る活動

その他事業の実施は 5,550 円である。

(3) 国内の事業

国内の事業を切り出して記述すると以下のようなになる。

<団体・活動紹介>

ー2025年12月13日(日) JICA 中部にて行われた名古屋 NGO センター主催「際協力カレッジ 2025」へのブース出展を行った(担当者:木村、ニ角)。このイベントを通して、新しく社会人1名が広報(主にインスタグラム)のボランティアとして関わることになった。

ー2026年3月13日東京にて行われた「緑の募金法制定30周年記念シンポジウム 緑の国際

協力で進める森づくり・人づくり・地域づくり」の事例報告で植林活動に関する報告を行った（担当者：二角）。

<海外研修>

2025年10月20日から26日まで、愛知県のオルタナティブスクール あいち惟の森の中学部の海外研修として、生徒5名と中学部担当職員1名をネグロス島で受け入れた。日本側として、事前学習会と保護者説明会を実施し、海外研修には職員の二角も同行した。海外研修の内容として、マングローブの植林・清掃活動、DADDJISの生徒との文化交流などを行った。

<植林ボランティア体験ツアー>

2025年度は、植林ボランティア体験ツアーとして、日本人2名（うち1名は2回参加）をネグロス島で受け入れ、地域住民と一緒に植林活動などを行った。また、2026年3月2日から約1か月半、三浦果子さん（大学生）が現地インターンとしてネグロス島で植林活動や広報などの業務を行った。

1.2 会議の開催に関する事項

(1) 総会

① 開催日時及び場所

2025年6月28日 20:30～21:30 オンライン

② 議題

- ・2024年度活動報告
- ・2024年度会計報告
- ・2025年度事業計画

(2) 理事会

① 第1回理事会

- ・開催日時及び場所 2025年6月28日 20:00～20:30 オンライン
- ・議題

2024年度活動報告案について

2025年度事業計画案について

② 第2回理事会

- ・開催日時及び場所 2025年10月4日 20:00～21:30 オンライン
- ・議題

2025年度事業進捗について

③ 第3回理事会

- ・開催日時及び場所 2026年3月21日 20:00～21:30 オンライン
- ・議題

2025年度事業進捗について

		イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)			2026~28 年度	
事業名	植林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・マングローブを累計244万本の植樹、参加者は毎年約2,000人超え ・バラリン・ボカナ・ビクトリアスにエコパーク造成 ・Pagadpat Festivalの実施 ・日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援 ・山間部では植林したコーヒー・カカオの収穫 ・山間部で行われている炭焼きの実態調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料・イチゴ栽培の専門家派遣 ・苗会社、肥料会社との連携 ・イチゴ栽培に必要なハードウェア整備（しかし、甚大な台風被害が発生） ・ボホールに大規模液肥施設の建設（JICA草の根技術協力事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本水大賞受賞 ・教育省ボホール支所から顕彰 ・バリグアンとシバトにランパンプを設置し、学校や地域に水を供給 ・ボホールの15地域で、15基（2025年度時点）の雨水貯留タンク、供給システムを建設 ・連動して行政がトイレのない家庭にプレハブトイレ建設の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックカフェ経営7年間 ・フェアトレード12年間 ・国際協力研修センター運営8年間 ・クラウドファンディングの経験3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜丘高校などで特別授業、団体訪問の受け入れ ・ニチバン国内植林に参加 ・各種研修に参加し、職員的能力開発 ・ESDコンテスト、七夕短冊コンテスト等のイベントを開催 ・他団体のセミナーやイベントでの講師（スピーカー） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本本部事務所を移転（名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求） ・「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」を受け組織基盤強化に取り組む。その後、さらに広報のあり方について支援を受ける ・日比で人事制度・就業規則の整備 ・事務局職員を採用 ・会員管理ソフトを導入
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる ・参加型イベントが不定期に行われる	働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる ・効果的な会員制度が完成
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・植林事業の見える化の取り組み（植林本数・映像・画像・社会的インパクト） ・エコパークを活用したエコツーリズムの再構築 ・植林ビジネスの展開（記念植樹・マングローブウェディング・オーナー制度） ・Sunday Morning Factoryから植林の依頼 ・バガバットフェスティバルなどの植林イベントを開催 ・カーボンクレジット化のための調整（日本のコンサルタント企業が協働） ・山間部で植林した果樹の収穫の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家現地派遣 ・イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散 ・イチゴ農園の観光化 ・国による監査と第三者評価の依頼 ・メロン、カカオの可能性を追求 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施 ・省エネルギー・省資源の利水技術をマスター ・行政が主体的に水問題を解決する仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの専門家の派遣 ・ビジネスパートナー（現地スタッフ）の雇用 ・カフェ、研修センターの再建（事務所を含む） ・研修センターを学生だけでなく、企業研修の受け皿に 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定期に会員同士が交流できる場の設置 ・広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用 ・フェアトレードグッズを発掘し、国内で販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員制度の構築（既存の個人情報利用、効果的な会員特典、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など） ・人事制度・就労規則・研修制度などの整備 ・現地インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ ・総会・理事会の定期開催
3年目標と成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人4,000人（スタディツアーが戻りつつある感触） ・植林に関するビジネス・事業が立ち上がる ・エコパークの建設、そのための資金の獲得（橋・タワー・看板など） ・山間部で商品開発（メロン、はちみつ、チョコレート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴの生産性を日本水準の半分に接近（0.7t/10a） ・観光化促進のため、加工場とカフェの活用 ・温室18棟の台風被害からの復旧 	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部・島しょ部に合った給水技術を啓発（次期N連で淡水化装置導入を提案したが。。。） ・地域へ水供給のために深井戸の建設 ・上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成 ・行政・住民が参考にできるマニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入した土地を活用し、オフィスと研修センターを建設 ・企業の研修を受け入れ（2社に拡大）、子供の英語教育のツアーなど新たな視点でのツアーにグレードアップ ・個人の植林ボランティア参加者の増加（50名/年間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内で不定期的に活動 ・会員同士の顔の見える関係 ・サービスグラントの「プロボノプロジェクト助成」（Panasonicの社員がプロボノとして参加）を受けながら事業計画、HPの改訂の実施 ↓ HP大幅改変を外注化、動画を複数導入、FB改変 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外でスタッフを12人雇用 ・総会・理事会の定期的な開催 ・有料会員数（マンスリーサポーター）が30人 ・年間の個人寄付と会費収入が合計18万円 ↓ ・団体内部の新体制の構築